

2. 文学部で学ぶこと

文学部では何を学ぶのでしょうか。文学部のことをよく知らない人は、読書好きな学生が集まる学部だと考えるかもしれません。文学部の学生は本をたくさん読むことになるという点では正解です。しかし、文学部での学びは単に本を読んで受動的に知識を増やしていくことだけではありません。人間のこころ、歴史そして学びについて徹底的に考えることによって自らについて知ること、そしてその知識を土台として他者との共生を可能にする力を育てることを文学部はめざしています。“Think for Yourself, Think for the World” という文学部のモットーはこのねらいをストレートに表したものです。

世の中にはさまざまな学問があり、ありとあらゆる事柄について私たち人間は大昔から綿々と研究を積み重ねてきています。人間そのものについて真剣に考える学問も当然のことながら必要です。文学部で行われているのは、まさに人間そのものについての学びなのです。

文学部の「文」はさまざまな意味を持っていますが、もっとも中心的な意味は「ことば」です。ことばを使うのは人間です。ことばを通して人間のこころについて考え抜く、そして、人間としてよりよく生きようとする姿勢を身につけることを文学部ではめざします。このような学びを経験した人は、さまざまな困難や課題に直面した時に自分の力で調べ、自分の頭で考え、そして行動できるはずで、このような深い思考に基づいた問題解決能力こそがこれからの新しい世界で生きていく人たちに求められている力なのです。深い思考に基づいて、行動できる人を育てる場、それが文学部です。

東北学院大学文学部では、人間のこころ、文化、歴史そして教育についてさまざまな角度から学ぶことができます。英文学科では、英米文学、英語学、英語コミュニケーションの3つの専修領域において英語とそれを使う人々とその文化・こころ・価値観などについて学び、多元的な文化に寛容な心を育てます。総合人文学科では思想・哲学、文化・芸術、宗教・神学の専修領域において、書物との対話を通して人間の生のあり方と倫理について考え、他者に対する寛容な精神を養うことをめざします。歴史学科では日本史、アジア史、ヨーロッパ・アメリカ史、考古学、民俗学の専修領域において広い歴史知識と歴史的な考え方を身につけ、現代社会をグローバルかつ歴史的に考える能力を育てます。2018年に設置された教育学科では、人がよりよく生きるための学びと人間的成長を支援することができる人物の養成をめざします。

すべての学科において、教養教育科目、外国語科目、専門教育科目が体系的に提供されており、幅広い教養を育て、学生のみなさんの知的関心に合った高度な専門的研究ができるようになっています。少人数の演習（ゼミ）は全ての学科で必修科目となっており、教員と学生、学生同士の協同的な学びを全員が体験できるのも文学部の特徴です。

文学部という伝統と新しさを備えた学びの場において、多様な仲間そして多彩な教員と共に、自らを知り、自らの頭で考え、他者のために行動できる力を育ててほしいと願っています。



文学部長

村野井 仁